

西村 サビーネさんはドイツに生まれてニューヨークで勉強して、ミラノで仕事をしたらっしやるんですよ。ヨーロッパとニューヨーク、日本の印象はどう違いますか。

サビーネ 日本は今回が2回目ですから、まだ判断できませんけれど、ヨーロッパの歴史とアメリカの若さは、社会規律の面でずいぶん違いますね。ヨーロッパは伝統を重んじる部分があり、アメリカにはそれがいいからこそ実験的なことがでる部分があります。そういう意味ではヨーロッパと日本のほうが近いかもしれませんね。あなたはヨーロッパに来たことがありますか。

西村 チェコスロヴァキアに3回と、オーストリアのザルツブルクに1カ月ほど滞在していたことがあります。

サビーネ どうでしたか。

西村 音の違いに気づきましたね。日本では喫茶店に入っても、どこに行っても、必ず音楽が流れていますよね。

でもザルツブルクに行ったとき、BGMのまったくない生活を続けて、むしろ新鮮でした。救急車のサイレンひとつに驚くような毎日。ヨーロッパの人たちは音楽をとっても大切に考えているし、それを楽しむ姿勢があるように感じました。

サビーネ 家庭の中でも同じですよ。きちんと聴いていないのに、CDやレコードをかけてばなしにするようなことは、私は好きではありません。

西村 私も部屋の中では無音にしている状態が多いですね。テレビをつけてい

から料理する、なんてこともない。

サビーネ ヨーロッパの作曲家で好きな人がいますか。

西村 ドビュッシー、ラヴェル…。

サビーネ とてもロマンティックな作曲家ばかりですね。

西村 聴いていて映像が浮かんでくるような曲が好きなんです。だから自分の曲を作るときも、聴いてくださった方が、私の曲から何かの映像や感情をイメージしてくださったら嬉しい。

サビーネ 私のデザインのイメージは、四角い決まった形ではなくて、三次元的なものをいかに立体として作っているか…。「驚き」を表現するのが好きなんです。

西村 そういえばサビーネさんは、ハンドバッグのデザインをなさるときに折り紙を使うそうですね。

サビーネ ええ。それもイメージを具体化するためのひとつの手段です。

**自分の内部から発酵するもの
精神性の高いものだけを
創り続けていきたい**

西村 私が作曲をするときは家にこもることが多いものですから、ちよつとした気分転換で映画を見たり、エアロビクスに行ったり、小さな旅行に行くんですけど、サビーネさんの気分転換はどうしてるんですか。

サビーネ 私は蛇みたいに消化して、蛇みたいに休養をとります。

西村 蛇みたいに？

サビーネ 私のコレクションはだいた

い半年に1回のペースで発表しているんです。だから3カ月は仕事に集中して、残りの3カ月でいろいろなものを吸収して消化し、コレクションに送り返していく。完全なフリータイムは、料理と掃除と子どもの世話(笑)？あなたのフリータイムは？

ますよ(笑)。
サビーネ ところで西村さんは、将来的に今の仕事を変えることがあると思いますか。

西村 いずれは結婚もすると思いますが、音楽は何らかのかたちで続けていくでしょうね。サビーネさんの将来はどうですか。

